

第 3 回 日田市審議会

議 事 録

日 時：平成 30 年 2 月 20 日（火）午後 1：30～
場 所：日田市役所 7 階中会議室

■日 時：平成 30 年 2 月 20 日（火） 午後 1：30～

■場 所：日田市役所 7 階中会議室

■出席委員：15 名中 12 名出席

石橋委員 日隈委員 坂本委員 十時委員 木下委員 井上委員 池田委員
篠藤委員 原田委員 上戸委員 海老原委員 大塚委員

■次第

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議題

（1）総合戦略の見直しについて

・日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 改訂（案）について

・日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 アクションプランについて

（2）その他

4. 閉会

発言者	主 旨
事務局挨拶 (地方創生推進課)	只今から、第3回 日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を開催いたします。 なお、本日は、日田商工会議所 会頭 十時康裕 (とき やすひろ)様が、会議への出席が遅れております。 また、連合大分 日田玖珠地区 協議会 議長 諫山智 (いさやま さとる)様、日田市自治会連合会 会長 岩里諫夫 (いわさと いさお) 様、日田市子ども・子育て会議 委員 日野幸子 (ひの さちこ) 様は、所要のため、欠席のご連絡をいただいております。 続きまして、審議会 会長の別府大学 篠藤先生から、ご挨拶をいただきます。
会長あいさつ	こんにちは。私たちは地方創生ということで審議会の活動をしています。多岐にわたった施策の束を一つ一つ実行しながら人口減少を何とかして食い止めるといった使命を担っています。個別的なことについてもたくさんの意見があるかと思いますが、私個人の気持ちとしては、何か日田市として一点突破で出てくるものと良いと思っています。別府市の若い市長が、湯園地というものをやったら動画がすごい再生回数になりました。彼もいろんな施策をきちんと実行しながら、ああやって一つ大きなものを実行しました。日田も何か芽が出て花が開けると良いと思っています。本日もどうぞよろしくお願いいたします。
事務局 (地方創生推進課)	ありがとうございます。 それでは、これからの審議の進行は、設置要綱に基づきまして、会長にお願いいたします。会長、よろしくお願いいたします
会長	それでは、会議次第に基づきまして、進行させていただきます。 まず、事務局は会議成立の報告をしてください。
事務局 (地方創生推進課)	(日田市まち・ひと・しごと創生 総合戦略審議会 設置要綱第6条第3項) 設置要綱に基づきまして、審議会の成立は、『委員の半数以上の出席』といたしております。 本日は、15名中、現時点で11名のご出席を頂いておりますので、この要件を満たしておりますので、会議が成立いたしますことを ご報告いたします。 以上です。
会長	今日は議題に(1)があって、(2)はその他ということになっております。(1)でもって一括して事務局から説明していただいて、そこから忌憚のないご質問あるいは意見交換をしたいと思います。 それでは事務局は議題(1)に関して一括して説明をお願いします。
事務局	議題(1) 総合戦略の見直しについて 資料 日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 改訂(案) 資料 総合戦略アクションプラン 平成30年度版(案) 資料 地方創生関連交付金 平成30年度事業申請状況

	資料 平成29年度 第1回まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 意見要旨について説明
会長	まず総合戦略の見直しとアクションプランについて、皆様からのご質問、ご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。
委員	私は大きく3項目質問があります。まず1項目目、5ページの『農林業を支える人材の確保・育成』について、変更した点は、後継者、地域就農者への支援ということでした。第1回時の意見に対する回答にもありますが、結局今、周辺部を含めて過疎化が進んでおり、農家は特に担い手不足で人口が減っています。これまでのように田畑や山が守れない状況になってきています。 このまち・ひと・しごと中心点は、農林業への新たな担い手を増やしていくことです。当然それは必要ですが、これまで市街地でない周辺地域で農林業を守ってきたのはやはり後継者。先ほどの新規の地方創生関連交付金で農林業を支えるための事業を申請しているとの報告は良いことだと思います。 実際に今、農業は、高齢者や女性が支えているところが結構あります。その部分の対策として、審議会意見要旨の1ページの一番下、2行目から『農業経営に高い意欲を持つ担い手への農業集積や農業後継者に対する就農支援の充実を図っていきます。』となっている。これは当然必要だがこれだけでは地域を守れない。今農業をやっている人に少しでも長く続けてほしい。 四国の葉っぱ産業等の例もあります。高齢者でもできるようなものを作って、それがお金になり、その地域でも年金プラスアルファで暮らし続けられるというところが必要だと思います。 営農指導の強化に含まれているのかもしれないが、この前大山に住んでいる方に聞いたら、営農指導は何をしているかよくわからないといった意見も出ました。全体的に今の持続可能な農業の部分が戦略の中では弱いのではないのでしょうか。先ほど、新規で地方創生関連交付金事業を中津江でやるという話が出たので良かったとは思いましたが。
会長	この点についていかがでしょうか
事務局 (地方創生推進課)	今日の審議会には、各担当課が入っておりますので、詳細については担当課からお答えさせていただきます。
農業振興課	農業振興課でございます。 委員からお話がありましたが、今、地域に残っている方々には、集落環境等の維持や整備をしながら、農地等を守ってもらっています。こうした方々には、国の中山間地直接支払制度を使いながら活動を支援したり、大規模な農業をするのは難しいので、ミニハウス等で産直野菜をすることで、年金を受給しながら安定した収入を得られるよう、導入を支援したりしております。 今回、推進交付金を申請している中津江農林支援センターはH28から県単事業で取り組んでいたもので、3年計画となっており、平成30年度が最終年度となります。担い手が減少するなか、農業林業も合わせて集落営農組織として地

	域を担っていくことが重要と考えており、農地の侵入道路や、イノシシ等の防護柵、農業用水路などの整備に対し、市と県とで支援し、地域農業の継続の取り組みを進めております。 アクションプランに掲載しているのは、農業後継者・新規就農者に対する取り組みを新しくしたことから、人材の育成の強化ということで挙げており、現状の地域農業をしっかりと支えていただいている方につきましては、また別事業で支援しています。
委員	アクションプランの1ページ、山椒増産プロジェクト事業が平成29年度で完了と赤字で書いてあります。山椒や、その下の薬草生産、ワサビだとかは、ある一定の年齢が高い方でも十分やっていける農業だと思いますが、山椒増産は今年度完了なので、その辺の効果についてはどうでしょうか。
農業振興課	山椒増産については、苗木をH27年度から3年事業で植栽していただいているところでございます。実際、植え付けをして実になるまでに5年かかりますので、成果が出るのは1，2年後です。津江地域は山椒の産地なので、産地の復活を目指してしっかりと取り組んでいきたいと思っております。
会長	あと二つあるようですが、先に他の方のご意見も聞いたあとで、残りを伺いたいと思います。いかがですか。
委員	戦略の9ページ、企業誘致の推進というところですよ。第1次産業の農林業や地場産業の商工業等を拡大することは大事だとは思いますが、日田くらいの規模のまちならば、企業誘致が重要になってくるかと思えます。第1回目の審議会の意見の要旨3ページでは、土地の確保に対し、担当課の回答は『オーダーメイド方式で進めている』としています。これは石井工業団地のことかと思いますが、日田市は本当に土地が無く、進出する際に土地を探している企業の例もあります。石井工業団地のオーダーメイド方式は現実的ではないと思います。石井工業団地は、企業から進出する希望があったときに、土地を組み合わせるという方式をとっていますが、現実には民間の人が土地を持っており、売却の際にその人たちの考えている価格と現実とで乖離していると聞きます。この日田市で企業を誘致するための土地を確保するという方法論として今の石井工業団地のオーダーメイド方式というのは一度考え直したほうが良いのではないのでしょうか。新たな形を検討しないと土地は確保できないと思います。そういう意味であれば、あまり土地も広くなくていいケースが多いIT関連も誘致活動をしていきたい。それ以外については、土地の確保の方法を見直したほうが良いと思います。
商工労政課	今、委員のおっしゃった、用地を事前に確保する方式はレディメイド方式と言いまして、現在の日田市の企業立地については、個別に対応するオーダーメイド方式で対応しております。企業立地推進室で、市内の活用できる土地情報を収集しながら、誘致企業のお話があった時にそういった土地を適宜紹介していくよう改めています。また、今回戦略の文言に追加を行っておりますが、来

	年度から積極的に I T 関連の企業誘致を進めていく予定です
委員	石井工業団地に頼っているわけではないということよいでしょうか。
商工労政課	石井工業団地も紹介していきますが、それ以外の情報も適宜、個別企業の状況に合わせて提供していく予定です。
会長	よろしいでしょうか。 要するに石井工業団地はオーダー方式ではないということです。
委員	石井工業団地は実際の工業誘致・企業誘致には合っていないので、それはそれで考えた方がよいと思います。
商工労政課	その点については今後検討します。
委員	会長から冒頭に話があったように、「日田市の創生は何を目指しているのか」という部分で、27 年に始まり今度 30 年度に入るので、選択と集中という形で、もっと表に出るような部分が必要ではないかと思います。総合戦略の中で成功している達成度の高いものは、県外からの移住が大分県の自治体の中では一番多かったという面であり、これは大きくアピールできるのではないかと思います。正直、総合戦略の事業数がどれくらいなどの報告受けても「ああそうかい」という感覚の中でしかありません。だから、ぼちぼち仕上げにかかる 30 年度 31 年度に向けての改革という意味でも、「日田市の創生は何を目指した」という実績のあるものを、選択と集中と感覚の中で選ぶ必要があるのではないかと思います。そういった話し合いは部署内で行われているのでしょうか。
地方創生推進課	庁内では、各部の部長で構成されている『日田市まち・ひと・しごと創生本部』という組織を持っております。お話のあった件については、その本部会議の中で、各々の課題は何があるのか、それに対してどう向き合っていくのか、というんな場面で議論をしております。 そうした中で、今、委員がおっしゃったように、選択と集中という形で 30 年度特化したものを申し上げますと、ご承知のとおり、29 年の九州北部豪雨災害にかなりの業務量が回ったことも事実ですが、もう一度、地域を担う人材の育成から進めることがまず第一点としております。これまで 27 年から総合戦略を進めている中で、先ほどご質問のあった農業や企業誘致の分野も含め、日田市が特徴としてあるものをいかに伸ばしていくのかを考え、事業を組み立ております。 具体的に何が特化しているのかとなると、農林等の資源を生かしながら人材を集める中で、移住した人間にいかに定住していただくか、定住するためには仕事が必要となりますので、そこに仕事を見つけていただくという支援をしていく、そういった仕組みの中で今、動いているというのが現状です。

委員	市長は 29 年度「地域力日本一」を目指すに掲げております。では、「地域力日本一」を目指すのであれば、この創生事業に関しても何をすべきか、その言葉にはまり込むような仕事のやり方があると思います。部署内でそういった話し合いをすると見えてくるとと思います。 もう 1 点、この事業は人口減少をいかにして食い止めるかが根本にあります。前も話しましたが、日田市の目標は 2060 年に 5 万人を切らないという数字を出しているはずです。それでいくと平成 30 年度は何名であるべきだ、という数字は会議の度に見せていただけると、実数との乖離が分かります。掲げた事業を日々こなしていけば創生事業は終わっているという流れでは、通常の事業と変わらない。メリハリのついたやり方というものもあるかと思います。
会長	今のは非常に大きなご意見であったかと思います。個別に、ほかにご意見はありますでしょうか。無ければ残りの 2 つをお願いします。
委員	総合戦略の 17 ページ、移住支援の充実の部分です。『まち・ひと・しごと総合戦略』とは言いつつ後ろ向きの話で、審議会の中では、人口減をここまでに抑える目標だがその数字に止める事も難しいとの話もしていました。さきほど会長もおっしゃられた、一つの突破口が何かないかという話もずっと出てきた。そこには希望というか「よしやるぞ」ということはあまり出てこない。それが私もずっと引っかかっています。 今、注目されているのは、定住人口、交流人口、に加え関係人口というのを国は言っている。ガバナンスという雑誌の 2 月号でもこの内容は特集されています。結局、移住・定住するというのはハードルが高いが、やはり日田を応援したい、日田に関わっていたいという人はいる。 篠藤先生はその先頭をきっておられる方で、この前天瀬の公民館で、幸せを感じるまち天瀬を作ろうではないかといった壮大な夢を語っていただきました。別府大学の学生も参加しており、天瀬のまちをどうやったら元気になるかを発表した。篠藤先生の授業を受講していなかったら天瀬のことなんか考えもしなかったというような学生が一生懸命考えてくださった。 定住・交流と言っても全国どこでも取り組んでいる中で、どこがトップランナーになるかはただの取り合いで、相当のお金と汗をかけないと勝てないと思います。 そうではなく、都会で応援したい、日田も玖珠も応援したいなど、一人の人がいろんな所を応援できるわけです。ふるさと納税も同じだと思います。そういった部分がこの総合戦略にはない。それをやはり考えるべきじゃないかなと思います。例えば 17 ページに『お試し田舎暮らし体験等を通じて』とありますが、定住や移住に結びつかなくても、そこに地域との触れ合いがあって、継続して関わっていこうと思う人たちがいれば、やはりその地域は元気になる。それがないとやった成果が本当に見えないと思います。

地方創生推進課	今、委員からご説明のあった関係人口とは、例えば交流人口とは一般的に言う観光客的なイメージでよろしいかと思います。当然、定住人口はそこに住んでいる人、関係人口というのはそこに关わる人の数的なもので、関係人口に関するもので「ふるさと市民制度」と呼ばれる制度がございます。今、いろいろと勉強中ではございますが、「ふるさと市民制度」とは、例えば、この制度を活用すると、ホテルが1万円のところが1割引します、市の施設の入館料を下げますなど、来てもらうことに対しての恩恵をつけるというものです。市の財政面でのプラスと言うのは、そうした方々が来ることによる観光消費額の増加と、場合によってはふるさと納税等をしてもらうような関係がございます。 おっしゃる通り、総合戦略の中には関係人口という視点はございませんが、今のところは一つの成果でありますふるさと納税という形で記させていただいております。現状値1,800万円当時から見ますと、若干災害があった事もあります、今回も2億円を超すという大きな伸びを見せているのも現状です。 関係人口については国も多目的な動きの中でそういった議論もされておりますので、当然それが日田市にとってメリットがあればそういった取り組み等も検討していきたいと思っております。
委員	意見要旨に対する担当課からの回答について、5 ページに地方創生推進課から、「豊後高田のような繋がりやネットワークや糸口が掴めていないのが実情」と書いてありますが、これを責めるわけではありません。 ガバナンス2月号に島根県の取組みが紹介されていますが、県の担当者が東京等で島根県を紹介して繋ぎをつくっていく時に、観光案内所ではなく関係案内所という言葉を使っている。それをやった県の担当者は「これからも島根のファンで有り続けていただける。移住しなくても学びたい、関わりたいという思いをこれからも実践してほしいとお願いさせていただきます。」と、つまり、応援してくれる人を歓迎しますと言っています。一遍に移住・定住ということにはならないし、向こうから引っ越してこようとする者はとてもじゃないが大変なこと。だから、それを繋いでいくことをもう少し広くとらえた形のやり方が必要と思います。島根は過疎のトップランナーで、そこが強みだと言っている。そういうところをまち・ひと・しごと総合戦略で打ち出さないとなかなか勝てないと思うし、成果も見えないと思います。頑張った感が出ない
委員	今、委員のお話を聴いていて思ったのですが、関係でも交流でも移住でも定住でも、結局はまちの知名度や魅力等が大事だと思います。魅力も知名度も何もないところに関係は作れませんし、行く・住むなどのそれ以上の関わりは生まれようがないと思います。だから市としては、とにかく少しでも知名度や魅力を上げていくことが、総合戦略の基本的なスタンスだと思っております。県内市町村で移住者が一番になりました。そのことが本当に定住に繋がっているのかというところまではできていない。ただ、一番だということはPRになり、ちょっと遊びに行ってみようかということには繋がる。ですから、総合戦略の

	中で漏れているものはこれから補ってまいります、今やっていることが必ずしも関係人口の増加に繋がっていないということではありません。やはり総合的に知名度や魅力を上げていくことを進めないと始まらないと思います。 隣に日田キヤノンの社長がいらっしゃいますけれども、今日お聞きしたところでは来年度 40 人の新採用が決まっているとのことで、そのうち半分が県外からお話を伺いました。市としては大変うれしいお話です。日田キヤノンに就職しませんかと言った場合に、会社の魅力が一番なのでしょうけども、日田市の知名度や魅力は多少なりともきっかけになるかとは思っています。 また、人と人との繋がりやコミュニティの絆が、社会関係資本として大きなもので、それが濃いほど魅力的な地域になると伺っております 我々としてはこの総合戦略を総合的に進める上で、地域力の魅力に繋げていきたいと思っていることをご理解いただきたいと思います。
議員	反論するわけではございませんが、今、委員がお話しされた内容は基本中の基本で当たり前のことだと思います。それから一步でも二歩でも、磁力をもっとアップするにはどうすればよいのかというのが、今回の総合戦略の基本的な部分だと思います。知名度を上げる、これは当たり前のこと。今やっている事も当たり前のこと。それからどうやってより日田を PR しながら、ブランドを売り込みながら、魅力ある地域を創っていこうかとするための総合戦略だから、知名度を上げるためにはそれから何をするかという部分が大切です。 だからこの総合戦略というのは、H27、28、29、30、31年、それから後も続くかとは思いますが、今、国や県にしても地方創生の全集という形で大きなキャッチフレーズをおいています。それは完全にそこにシフトすることによって、生き残りをかけるという意味合いを大きく気持ちの中に持っていないと、衰退する状況になってしまうのではないかと私は思います。
会長	両委員からのご指摘はかなり本質的なお話でありますが、他の委員の方いかがですか、何か見直しの所で個別的なことを含めてご質問やご意見はございませんか。 すでにご指摘の中で有りましたが、第 1 回意見書の回答が配られています。それから今日、関連の交付金についても資料が配布されております。これらについて何かございませんでしょうか。
委員	総合戦略の 14 ページ、アクションプランの 4 ページになりますが、2 番目『地域社会に関わるキャリア教育の支援』とあります。ここには、高校などと連携し、高校生が地域などの課題を知る。そうした取り組みの中で地元就職を促進していくということを書いてある。アクションプランには『ふるさと就職の促進』とあります。 今の高校生は卒業してすぐ就職ということではなく、上の学校に行く人が大半だと思います。それでも地元に戻ってくる人もいます。福岡の大学に、保育士等に日田に就職しませんかという案内はしていると聞いています。今、高校で

	も例えば日田高で言えば地域の水ということに関わって研究発表をやるなど、地域の見直しなどをテーマにやっているとあります。高校は教育委員会の反中に入らないから難しいですが、大学がないわけですからやはり頼みは高校生となる。 島根県の島前高校では、東京の人でもそこで学んで働きたいと思う取り組みをお行っています。日田市についても高校生に対するふるさと教育について、もう少し積極的な部分をこの戦略の中で出すべきと思いますが、市としてどう考えているのでしょうか。
商工労政課	高校生のキャリア教育に関して、商工労政課で実施している内容についてご説明申し上げます。商工会議所に委託して「ジョブカフェ大分ひたサテライト」を設置し、高校生を主体とした合同企業説明会、ビジネスマナー講座、日田・玖珠管内の広告性を集めた集団討論等、直接就職に繋がるようなセミナー等を実施しています。それから、民間のNPOの団体「日田しごと学び舎」というのがありますが、この団体も直接高校生を集めて、セミナー等を行っております。
会長	私自身が学校関係者なので意見はたくさんありますが、文科省の方針でも今までの教え方を見直しましょうと言われてしています。アクティブラーニングなど、河合塾の全国調査によると大分県は非常に進んでいるそうです。黒板で知識を与えるやり方はやめて、課題を発見して情報を集め、それをプレゼンテーションやディスカッションするような人間をつくるよう言われています。その時に、現在の状況だと小・中学校は市、高校は県、大学は国の所管となりますが、連携やジャンピングしなければ子は育たない。島根県の海士町では高校を失ったらまちの未来はないということで、高校に焦点を置いた取り組みを行いました。そこに全国の大学院生等が関わる中で「課題ばかりだから学びの宿だ」となった。新しいことを考えるのが研究ですので、海士町は研究の山だと。その高校生がインターネットで私を見つけて質問が来たこともあります。「先生がやっているドイツから持ってきた方法についてどうでしょうか」という内容でした。こうしたことは行政の所管の問題ではなく、クロスするという中にしか知的な発向は起こらないわけです。それから、小学校・中学校・高校と、これまでは先生は研究者ではなかった。大学は研究の自由が保障されていることもあって、その卵が大学院生で有ればそこにクロスするものをつくる。それは地域を考えると、行政間の対象がどうかではなくて、人が育つかどうかの問題です。今や国も高大連携を推進しています。今、ほとんどの人が高校へ進学し、大学進学が五十数パーセントです。専門学校や短大を入れると八十パーセント位の人が進学をする。日田の場合は専門学校等を含めてごくわずか残るくらいで、ほとんどの人は外に出ていきます。その前の最終段階の高校生をどのように地域に交わせるか、地域というものを新しい教育環境の中に入れていくのかを考えていくことが重要で、しかも誰が関わるかというのはフレームを相当外していかないとはいけません。例えば大学であれば、大分県内の大学は全てコ

ンソーシアムというものをつくっています。特別な助成を受けて、APU や別府大学、文理大学等がコンビネーションで地域に出るなど大学をクロスして取り組んでいます。今、文科省の助成事業として注目された取り組みが、看護大学の景山先生のところと文理大学がコラボして、確か豊後大野市かどこかで実施したプロジェクトがあります。そういった意味ではクロスした形の情報をもう少し入れていかれるといいでしょう。今、教育の分野では見直しの指示を受けています。今度共通テストも変わるでしょう。テストから全て見直すということで、こうした取り組みは各大学で必死になっているところがございますから、是非ご参考にさせていただければと思います。

それから、私が議長やっていて多く話すのは申し訳ないのですが、先ほど委員が言われた、全ての分野に対してきちんと施策を打って、KPI 等を目標に地道に取り組まなければ地域はできないというのは我々みんな知っているわけです。ただ、1 点が、やはりブランディングというかオンリーワンのイメージ。全部をきちんと取り組みながら、どこかは勝負を賭けてやる。

私も大学で広報室長をやっていますが、何かやれと言われてずっと考えています。オンリーワンとは何か。日田には本当はたくさんある。これは私の勝手な考えですが、咸宜園と長三洲の物語というのは、日本の学生を創った基であるとして、まさに近代化はここから起こったとする。この前、別府大学の飯沼賢司教授が天瀬で講演した内容ですが、長三洲が文部省に行っているんなものを学んでも彼は実感として、咸宜園の体験、要するに身分等関係なく成績できちんと判断するという体験が有ったから、日本の学生をきちんと育てることができ、世界に冠たる近代化名手たちが成功を収めたのではないかと、言っていました。そうであるとすれば、今、明治時代の振り返りのような「取り戻そう、〇〇」といった動きがありますが、私は違うと思っていて、日本の学生が個々で思ったがゆえに、日田では新しい学問、新しい教育が起こると仮定すると良いと思いました。

最近私が日田でも話した内容ですが、この先、近代のシステムは行き詰り、AI が出てくればほぼみんな負けます。ちょうど地方創生で 2030 年 2040 年には五百いくつの自治体が滅びると言っていますが、2040 年にはだいたいホワイトカラーの労働者の半分どころじゃない人数が失業すると言われている。消える職業リストというのがあって弁護士や会計士は消えていくと言われている。だから、提携型のビックデータで機械が学んでいく。2040 年は社会が大激変している。だから、一生懸命勉強して将来が有ると思っているのは大間違いだと僕は思っています。そんな時代があるならば。そういう時代の新しい教育は日田から作ると思う。鳥取県の智頭町では、保育園が森林の中で子どもを放し飼いにしたら、全世界で報道されてそこに人が集まったという変な話が有ります。あれは完全に規則違反ですが、つまり自然とともにある基礎的な体験をしないかぎり、ディープラーニングする AI には勝てない。東京や世界

ではこういうことが今ものすごく議論されている。したがって日田でそういう議論をして、日田こそが次の礎になるような、咸宜園パート2を取り組むと良いと思いました。

それからもう1点がこの間天瀬に行って、天瀬には廃墟のような古びた廃業したホテルが有った。それを学生が見て、お化け屋敷にするという発表を行いました。私はふざけているのかとびっくりしましたが、確かにあそこはお化け屋敷みたいな雰囲気だとも思いました。私らが有名になるときは、マスメディアを活用する時代だったけれども、インターネットの今の環境で言うと、特定スポットが特定の人たちに高評価を得るゾーンがある。お化け屋敷と言うと私たちは「どうかな」と思いますが、求めてくる人が何万人かいるらしいです。別府の湯園地でもクラウドファンディングで集まったので、廃墟になっているホテルの1つをお化け屋敷にして天瀬お化け屋敷ってやると来る人が増えるかもしれません。今のメディア戦略とかが我々の時代のマスメディアのランキングみたいな意識と個別対応だとそこだけでもものすごく熱狂してしまう。若い人はそういうのが凄く敏感でびっくりしました。

長くなりましたが、先ほど委員が言われた尖り方の話で、戦略の残りの年数でやはり何かの成果を見える形で出していただきたいというお話だったんだろうと思います。

それから、関係性の問題についても、大学を見ていると、確かに研究はしていますが、特定の分野しかできません。その面は一面として大学の財産としていいのですが、私はやはりネットワーカーでなくてはだめだと思います。例えば私は、ドイツにおける有る市民参加のものを日本で広めたということで、別府大学の篠籪というのはあの人だなと覚えて頂いている。その時に、そういう学会にいれば、私の研究はこの分野だけど、私がどれだけの関係性を持っているかというのが一つ重要で、大学はクロスするネットワークのハブじゃないと駄目だと私は思っています。ですから、市役所でもいろんなところでも本当に日田の為に動く知識人、人をデータバンクじゃないけど蓄積しているかどうか重要です。そしてその人は本物じゃないと駄目です。

私は河合塾の偉い人に知り合いがいます。でも私とは飲み友達だから、私が動けば彼はいくらでも動く。実は我々一人ひとりがこういうようなものを束としてどれくらい持っているかが、何かを発信する時の地下水のように動くものとなります。日田は日田ファンなどのネットワークはすごく強いと思いますがいかがでしょうか。日田高校もあるし、日田林工高校もある、非常に特殊なところ。私は府鶴見丘高校出身ですから、私が動くときは鶴見の時のいろんな人間が動いてくれます。そういうものを財産としてどう把握しているか。これが無いと結局、莫大な資産があるのに資産把握していないことになります。

意見を言いすぎました。元に戻しまして、議題の1番目の項目はもうよろしゅうございますか。

	——発言者無し—— そうしましたらこの総合戦略の見直しについてはこれでご承認いただいたということによろしゅうございますか。 ——発言者無し—— そうしましたら、議題の２、その他の項目について何かございますでしょうか。 事務局は何かございますか。
事務局 (地方創生推進課)	今回の戦略の案、それからアクションプランの案につきましては今月から始まります市議会の第１回定例会の全員協議会で説明し、定例会でご審議をいただく予定としております。こちらの審議の中でのご意見等を踏まえて、計画の内容が変わるようでしたら、また改めて審議会の開催についてご案内申し上げたいと思います。 今日の会議資料につきましては、平成30年度の予算の内容が盛り込まれております。この段階ではまだ予算案でございますので、正式には、明日、報道関係の皆様には予算の上程の内容についてご説明をする予定でございますので、そうした取り扱いをお願いいたします。
会長	それでは何かご意見、ご質問等ございませんでしょうか。
委員	会長がだいぶ教育の話をしていたので、今、会議所で問題になっているのが、高校の学力のレベル低下についてです。日田のある意味トップクラスの生徒たちは、中学校くらいから福岡の学校に転出してしまっている。もう少し高校の学力レベルを上げなければならないのではないかと思います。高校の学力レベルをどう上げるかというのを地域として考えなければ、優秀な人がみんな地域から流出してしまう形が今、現実にある。 現状の高校の場合は、中高一貫が主流になってきている。日田の場合も一部中高一貫教育を取り入れたような形のものをやっていかないと、本当にトップクラスの生徒がみんな福岡や大分に流出してしまうと思います。その辺をぜひ、総合戦略に関係するかはわかりませんが、市として検討をお願いしたいと思います。
会長	教育で言い出すとたくさん意見があるのですが、私は東京で勉強した後、20代の終わりにドイツに行きました。女房はドイツ人で、私の親戚の半分以上はアメリカ人です。私は中高一貫とか偏差値がどうかはものすごく古いと思っています。私の東大の同級生もドイツに行きましたけれども、外国に行ったら全然突破できないんですね。何が違うかということと好奇心の強さなんです。だか

	ら、好奇心をどう強くするかということが大事です。それから、うちの大学は偏差値的に低いのですが、ある種でぐっと伸びた学生は、今では、九大の心理学で博士号をとって、10人だけ国家が応援する中の一人に選ばれています。つまり、今からの知というのはインターネットの時代だからいくらでもできる。問題はそれを伸ばしていけるかどうかというのが重要です。日本は偏差値教育やどこに何人行ったかなどの学校歴が染みついている。日田でぜひ議論の場をつくり、こう言ったことをとことん討論して、日田こそが教育の発祥の地だとして取り組んだらいかがでしょうか。
委員	APUは大変良い事例だと思っているので、ああいったものが日田でできると良いと思います。
会長	日田は教育でもって最先端を行くくらいのつもりでここで議論をして、ここから新しい教育をつくってやるぞくらい言ってしまえば勝ちだと思います。それではこれで一応終わりということで、事務局にお返しします。
事務局 (地方創生推進課)	ありがとうございます。 それでは審議会の閉会の挨拶を投野企画振興部長より申し上げます。
閉会のあいさつ 企画振興部長	皆様お疲れでございました。時間が足りなくて、まだまだ意見を言いたかった方はたくさんいらっしゃったかと思います。総合戦略を策定して3年が過ぎようとしています。計画はあと2年ですけれども、これで終わるわけではございません。究極の課題が人口減対策や雇用対策になろうかと思っておりますので、たくさん意見が出ました通り、尖った部分も当然出していかなければなりませんし、一つ一つ地道に成功体験を積み重ねていくことも大事だろうと思っております。また今後ともたくさんご意見をいただきたいと思います。本日は大変ありがとうございました。